



班
女

特 別
牙 12
3656
32



412
3656
32

ひか



うやうふん老々冥嶺岡野上乃
 高乃也少々人ぬも我花子とナ
 上嶺を拵集々々々人々々々
 表於此那々々々音田乃少ね殿と
 やらん尸人の東へ流下わん々
 けさる小流と々々々々ては花子と
 深き山奥に人々々々々々を

< 97-198 >

とにけりおみは清入なき由尸人
ねは空なるなるなううゝ名を娘女
海に東るるもさうのねへ流りし乃
時ハ尸上とんとうこく申付
うゝ五音願もあゝ都よ恙てふ
お書成乃子おあまのこゝ神よわ
すゝよ紀ハ美うぬしるるもてふ

皆こ業うゝ 夜日野お音るを
おてす出ゝぬゝをおを流うふ
見えゝきあゝのもうゝなまゝ人よ
別衣けり日を重月ハ由巻せよ浅
秋風乃たしわなうてハゆゝり成
さゝりる人もあゝ夕暮お雲の
旅をよおをおひうゝお遊よ

あくまの物も子を以てはしる

すれを神也佛もあつれん

おもしろ事成叶へ祈人支是相

をこ能玉体清光布能也三輪

四神ハ夫婦男女おたつひを

まも〜せとち〜ひホ〜まの

は神こ小祈誓をきなも〜の

なる依へ素體上再拜。うひ可

了ふ我必ハま〜きたちよ〜わ

人志運は〜うお〜ひ〜め〜あ

意〜〜乃人〜あや 実や

新里は〜清衣洗川子慈き〜と

旅。心ひ〜ん〜も〜され〜

人心海は〜あき清江乃すま〜

上
ちるまわさる心直なるをね八と

信あは人しあう風粒——くる

秋の葉お心もせよ思たまき恋お

あ——らあ——や粒八とお仲あり

き——うひうよ 梅倒乃姫女お

有ハム 三拍 うは——あやりら必を

姫女とよひ終ふうやうトく

う終もうき人乃形見お朝を小

ぬまううをきう——き袖お露

あは——し——もあ——ひう出は

上
姫女乃園乃内ぬは秋お扇の色

上
葉お秋露乃上あは葉お露乃露

下
友を流るあふきと秋の白露と

上
河を流るあふきと秋の白露と

河を流るあふきと秋の白露と

河を流るあふきと秋の白露と

河を流るあふきと秋の白露と

秋風ひやこころふりて國邊に
あふきも雲かきこひをきくも
すききりて秋風恨あり由也
おと人のこころあふはあはれ
そむくひなきいと更世をも人
なも恨むまじく思ひぬき乃
願成思はくをたねにぬき

福也うきひりき 終よのくる
月夜にふとぬき持る
あふきとぬきあふきのぬき
そのぬきぬきの 素乃くも
かなしと父昔の月のも
秋風はぬきとも ねきぬき乃
うよとの俊もきく 藤子

忠乃言もまじく乃與りあし

あや 形見乃扇もわぐ

あふさきとは空もや

あふさきとは空もや

あふさきとは空もや

あふさきとは空もや

あふさきとは空もや

あ

あ

あ

あははくしにみちちりわね女乃
おたる扇の鏡志の鏡とりの鏡

あははくしにみちちりわね女乃

あははくしにみちちりわね女乃

あははくしにみちちりわね女乃

あははくしにみちちりわね女乃

あははくしにみちちりわね女乃

あ

あ

あ

あ

物なと 物人其さけの文らふ
あちりる折の扇とあきま
惜き物故人よ見しるすあ
上野地
志願のしも三形見乃言お義を
いふてお森乃下は
つていいう折るともおさう
下
さうめは扇 扇さの梅河乃為

るも夕昔お月をひき流扇に
待乃角らわの折ふハ河乃は為
なるらん 河せや雨露の
多お豊上折懐福を 葵乃秋ハ
いりなるぞ乃のさはく
東海乃未お松山浪こえそ海ら
さう一人や 未お松山立



